

西諸県地域の普及活動

令和5年10月

西諸県農林振興局

(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 第64回宮崎県畜産共進会（肉用種牛の部・枝肉の部）が開催

5日、小林地域家畜市場において、宮崎県主催の第64回宮崎県畜産共進会肉用種牛の部が開催されました。

西諸県地域からは第1類に5頭、第2類に5頭、第3類に3頭1セットが出品されました。

結果は以下の通り。★肉用種牛のグランドチャンピオン

区分	賞	名号	出品者
第1類	優等賞主席	あかり★	M氏（小林市）
	優等賞4席	ひなよ152	S氏（小林市）
第2類	優等賞2席	みみ	O氏（高原町）
	優等賞4席	あきひめ	(株)森田牧場（小林市）
第3類	優等賞2席	あいり	N氏（小林市）
		ひかり	M氏（小林市）
		ながおか589	(株)M牧場（小林市）



【肉用種牛の部 会場の様子】

24日、ミヤチク高崎工場において肉牛枝肉の部が開催されました。

結果は以下の通り。★肉用枝肉のグランドチャンピオン

賞	名号	出品者
優等賞主席	竜夫★	(有)B牧場（小林市）
特別賞(脂肪賞)	耕太郎	O氏（小林市）



【牛肉枝肉の部 表彰の様子】

肉用種牛の部・枝肉の部の両方において、西諸県の生産者がグランドチャンピオンを受賞され、改めて当地域のレベルの高さが示される大会となりました。

2) 10月期子牛郡品評会が開催

10日、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和5年10月期子牛郡品評会が開催されました。

品評会には48頭が出品され、審査の結果、優等賞に8頭、壹等賞に22頭、貳等賞に18頭が選ばれました。

結果は以下の通り。



【優等賞首席 ふくおおひめ号】

賞	名号（種雄牛）	出品者
優等賞主席	ふくおおひめ(大白清－耕富士－安福久)	吉田剛浩（高原町）
優等賞2席	まれ（二刀流－愛日向－忠富士）	奥野恵子（高原町）
優等賞3席	あかり（二刀流－耕富士－安福久）	末永正博（小林市）

受賞牛は、輪郭鮮明で皮膚のゆとりがあり、前・中・後軀の幅が充実しているとの講評でした。

3) 第64回宮崎県畜産共進会（乳用種の部）西諸代表選考会が開催

25日、小林地域家畜市場において西諸酪振主催による第64回宮崎県畜産共進会乳用種種牛の部西諸代表選考会が開催されました。

第1類から第6類まで、計37頭が出品され、各級の審査において、上位3頭の計18頭が代表牛として選出されました。

第64回宮崎県畜産共進会乳用種種牛の部は11月27日に開催されます。グランドチャンピオン及び団体優勝を目指し、地域一丸となって取り組んでいきます。



【審査の様子】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 農業における生産性向上研修を開催

24日、農業経営における生産性向上に関する研修会がオンラインで開催されました。

講師はトヨタ自動車株式会社アグリバイオ事業部の曾根篤氏で、ムダの有無を判断する前に、どこに問題があるのかが分からないことが問題であり、日々の作業に疑問を持つことの重要性を話されました。また、生産性向上のためには、作業のやり方を見直す「生産管理」と、一人一人が仕事の力をつける「人材育成」が欠かせず、自らの力で改善する仕組みづくりや月毎、日毎、担当毎の仕事内容を整理すること、従業員の能力をマップ化し、整理する等、改善に向けた取組について詳しく説明されました。



【農業に応用できるトヨタ方式を学ぶ参加者達】

参加者からは、生産管理・作業管理の基準を決めてムダの見える化することが大切だと分かったとの感想があり、ムダな作業を無くすこと、整理・整理整頓をきちんとすることは、GAPの考え方や日々の業務改善にも繋がることであると実感しました。

2) 就農相談会を実施

25日、普及センターで、小林市での就農希望者1名（肉用牛繁殖）の就農相談に対応しました。この方は、昨年度から相談対応を行っており、父親の肉用牛繁殖経営を継承して就農を希望されています。今回の相談では、補助事業の情報提供や就農計画作成に向けた聞き取りを行い、来年認定新規就農者の認定予定です。

今後も、関係機関と連携して就農に向けた支援を実施していきます。

(内訳 小林市：肉用牛繁殖1名)

3) みやざき就農“応援”相談会2023に参加

1日、JA・AZMホールで開催された宮崎県農業振興公社主催の「みやざき就農“応援”相談会2023」に参加し、就農相談に対応しました。今回は、新型コロナウイルスの西諸県地域からは、きりしま農業推進機構とえびの市・JAえびの市がブースを設け、計5名の相談者が来訪しました。

相談者は、幅広く各地域の情報を収集し、これから研修先や就農地等を決めていく人が多く見られました。



【ブースで相談を受ける担当者】



【相談会に参加した県内市町のブース】

4) にしもろサップが農畜産物即売会を開催

19日、えびの市役所、小林市役所及び小林総合庁舎において、にしもろサップが農畜産物即売会を開催し、普及センターはその支援を行いました。

SAP会員10名、各市職員3名及び普及センター職員2名が参加し、計18品目（うち、1品はSAPOBが出品）の生産物を会員自ら販売しました。

今回で5年目の取組で、ほとんどの生産物が完売し、大盛況な即売会となりました。

今後も、にしもろサップ活動がより活気のあるものになり、組織のPRや会員の資質向上につながるよう支援していきます。



【即売会の様子（えびの市役所）】



【即売会の様子（小林市役所）】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) 加工用ほうれんそうの黄化対策試験

30日、JAこばやし及び専技センターと連携し、加工用ほうれんそうの黄化対策試験ほ場を設置しました。

令和4年度産の加工用ほうれんそう栽培では、12月の急な寒さが引き金となり、下葉からの黄化が多発しました。そこで、11月に液肥を葉面散布することで事前に低温耐性を高めることを狙った試験を実施することにしました。

近年の気象変動に対応し、安定生産できるような取り組みを今後も続けていきます。



試験ほ場での初期生育の確認

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 小林市果振協役員会

17日、普及センターにて、小林市果振協役員会が行われ、生産者2名と関係機関3名が出席しました。会議では12月の県内視察について検討し、宮崎県総合農業試験場果樹部担当者と病害虫専技に講習を依頼し、更に、JAおすずぶどう生産者の園地見学を行うこととなりました。

今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) ラナンキュラス生産者のほ場巡回

ラナンキュラスは今月頭から随時定植が始まりました。そのため、随時、西諸県地域のラナンキュラス生産者10名のほ場を実態調査も含めた巡回及び支援を行っています。

今年は10月初旬の気温が低かったこともあり、全体的に定植が早く、芽焼けや初期生育不良の懸念もありましたが、各ほ場に応じた管理を行い、順調に生育しています。

定植後のかん水や防除、温度などの管理が大切になりますので、今後も順調に生育するよう支援していきます。



【ラナンキュラス巡回支援】

2) JAこばやし花卉部会の定期巡回及び定例会

18日、小林市管内において、生産者5名、関係機関3名が参加し、キク生産者5戸の12月年末出荷型を中心にハウス巡回を行い、生育状況と今後の管理について確認を行いました。今年はやトウムシ類が多く発生していますが、定期的な防除を実施されています。また、8月お盆出荷作型で出荷が遅れたほ場では、12月年末出荷作型の定植が遅れることになり、年内出荷が遅れる可能性があります。

定例会では、JAから情勢報告が行われ、普及センターからは、農薬散布時のノズル使用の注意点について説明を行いました。

今年も気温が低くなってきました。依然として重油価格が高騰していますので、日頃の保温対策や省エネ技術の導入により、少しでも経費を抑えた上での高品質な切り花生産を支援していきたいです。

3) 高原町花卉部会の定期巡回及び定例会

26日、高原町管内において、生産者3名、関係機関4名が参加し、キク生産者3戸のハウスについて12月年末出荷型を中心に巡回を行い、生育状況について確認を行いました。

定例会では、JAから情勢報告が行われ、普及センターからは、冬作に向けた準備について説明を行いました。



【高原町花き部会定例会】

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1) 西諸県地区果樹技術員会第5回定例会

23日、普及センターにて技術員会の定例会を開催し、関係機関約10名が出席しました。会議では管内果樹の生育状況や普及計画の進捗状況報告、燃油高騰対策の検討などを行いました。また、11月の県外視察について検討し、熊本県の試験場や長崎県南島原市役所を訪問することとなりました。今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【果樹技術員会】

2) 営振協展示ほにおけるランンキュラスの定植と調査

6日及び19日、西諸県管内のランンキュラス生産ほ場にて、ランンキュラスの冷蔵週数と定植日の違いによる生育への影響を調査するための展示ほを設置しました。

冷蔵週数は5週間と6週間の2区、定植日は6日と19日の2区の合計4区を設定しています。今回、冷蔵していたそれぞれの区の定植を行いました。

今年、10月上旬の温度が比較的低温で、定植後の芽焼けなどの発生が少なく、株も少しずつ成長している印象です。

今後定植後の生育を観察し、1番花の収穫開始時期や切り花品質について引き続き調査していきます。

3) 西諸県地区花き技術員会第5回定例会の開催

16日、普及センターにて室内検討を実施し、関係機関11名が出席しました。各JA担当者から管内の生育概況について情報共有があった後、普及センターから普及活動の実績や今後の予定、管外視察などについて説明し、課長からは堆肥についての講習を行いました。

11月は、管内のランンキュラス作付調査や先進的な西臼杵地区へのランンキュラス視察、大分県のキク産地への視察も計画しました。

今後も、活発に活動し、関係機関との連携を行い課題解決に取り組んでいきます。



【花き技術員会定例会】

4) 西諸県地区花き生産者の若手勉強会

6日、普及センターにて、西諸県管内の若手花き生産者3名と関係機関3名で勉強会を実施しました。今回の勉強会の内容は、①法人と個人経営の違いについて、②損益分岐点による経営の考え方、③経営形態の異なる参加者2名の決算書を基にした意見交換を計画しました。

①、②は普及センターから説明しましたが、③では、生産者が互いに疑問点や経営する上での考え方などについて活発な意見交換され、勉強になりました。

積極的に活動される若手の生産者であり、今後の西諸県地域の花き生産を支えていく方々ですので、今後も引き続き一緒に勉強しながら支援を行っていきます。



【若手生産者と関係機関の勉強会】

5) 秋整枝前の茶園巡回指導の実施

6日、西諸茶業青年会を対象に、秋整枝前の茶園巡回指導を実施し、生産者4名、関係者7名（総合農業試験場（専門技術センター、茶業支場）、管内関係者）が参加しました。

各茶園では、一番茶の安定生産に向けた秋整枝の方法や栽培管理全般の指導を行いました。

管内での秋整枝作業は、10月中旬頃から始まる見込みとなっています。



【茶園巡回指導】